

タイ・チェンマイ大学の 交換留学への参加

医学科 4年生：氏名 玉本咲楽（タマモト サクラ）

1. チェンマイ大学での実習の紹介

チェンマイ大学では今回 Community Medicine(地域保健・公衆衛生)で実習に参加しました。

1. 一日目:McKean Senior Center

高齢者に対する保健のひとつとして、高齢者の介護施設と病院が組合わせた施設に行きました。ここでは段階の初期では、運動や教室などで自立した生活を目指しつつ、医療ケアが必要になった場合はレベルに合わせて医療提供をチームで行うそうです。実際に常駐の医師だけではなく、必要な場合は医師が派遣されたり、理学療法士などと多職種連携が行われていました。また、現地で医療



ケアが必要となった日本人の方とお話することができ、施設の先生曰くしばらく話さずにはいられず、認知も面でも心配だったそうです。しかし日本語ははっきり話されていたので安心したとのことでした。私も英語も大切であるが、現地の言葉や母語などの患者さんに親しみのあるコミュニケーションで接することの大切さを目に沁みて感じました。

2. 2日目: Immunology and microbiology laboratory



二日目は免疫学教室と微生物学教室の見学を行いました。免疫学では、研究に使う機器や実験方法について解説していただき、大きくアレルギーの検査、抗体を使った検査、フローサイトメトリー、たんぱく質分析などを用いて病院の検体も検査をすることがあるとのことでした。(メインは別のラボで検査するとのことでした。)また、らい病などのスクリーニングも研究室で行うとのことでした。微生物学では、国ごとに流行したり、蔓延している微生物が異なるので検査で注目する真菌などの種類も異なる場

合がありました。口腔内付近で白苔を見れば、自分の知識ではカンジダを考えやすいのですが、名前も聞いたことがないネズミから感染するカビだそうです。タイでは英語の教科書を使うそうですが、タイの知識はまた、タイの知識として学んでいるところに惹かれました。国際保健を考える場合は日本の知識をそのまま応用するだけでは足りないので、機会あるときに学ぼうと思う機会になりました。

3. 3日目: Occupational Medicine clinic (Clinic 108) ・ Epidemiology lecture

まず日本で言う産業保健として、健康診断や病気になった人が治療後に仕事に戻る際にどのような restriction や limitation があるかを判断する診療所に見学しました。その後、電子カルテについて教授していただいたあとに、データサイエンスに興味あることを伝えるとデータを使った Epidemiology の講義を学生向けにちょうどしていたとのこと、その講義に混ぜていただくことができました。Cox 比例ハザードモデルについての講義を英語で聞くこ

とができ、少人数のため質疑応答もできて興味深く、Chaing mai university の学生は実際に統計を行うことで、統計の勉強を行っていました。

4. 4日目: Clinical Chemistry and Clinical Microscopy laboratory

日本で言う臨床検査部門にあたる研究室を見学しました。一日に多くの検体を使うとのことで、特別な操作が必要な検体以外は、採決管を回収ボックスに投函した後はほとんど全て機械が行っていました。異型リンパ球については写真で検体中の全細胞を写真でみることで、臨床検査技師がAIで間違えている部分は修正しながら検査を行っているとのことでした。



5. 5日目: Ban Pang Muang Health Promotion Hospital

プライマリケアにあたる病院を車で一時間かけて行き、見学しました。1次診療の病院ですが、いくつかの村の7000人程度を診るとのこと、救急も慢性期についてもどちらもある程度は対応できるとのことでした。また、病院の医療従事者だけでは村全員のケアを行うことができないので、4年訓練を受けたPublic Health technical officerによるシステム構築のもと、村の人にも訓練を受けてもらってボランティアとして生活のケアに携わってもらうシステムをとっていました。病院だけでは医療が成り立たないことを住民も認識して村全体で健康を守る姿勢は日本ではなかなか経験できないシステムと思いました。

2. 休日での過ごし方(現地の学生との交流)

チェンマイ観光

Pha lat Temple、Doi Suthep temple、Chedi Luang temple、Wat Jet lin などタイの伝統的な寺院に訪れました。同じ仏教でも建造物の違いについて現地の学生からも説明をいただき、知識を深めることができました。また、ただ知識を与えてもらうだけではなく、日本との違いについても色々話すことで、お互いに英語を使いながら文化の違いを共有することができました。私が一番興味があったのは、茶道部に所属していることもあるのでタイの伝統的なお菓子をたべつつ、感想を共有することが楽しかったです。また、医学のことだけではなく、留学を考えている学生と話すことができたのでお互いにいい刺激になりました。さらに、実習後に時間があり、たまたま学内で友人に会った際にアイスクリームのお店に連れて行ってくれるなど、大変親切にいただきました。この友人が日本に来たときもそうですが、留学生が、奈良に来たときも勉強も生活も何かしらの思い出が残るように交流したいと思いました。さらに地震が発生した際に、暑い中、建物への入室が点検がすむまで禁止であった際に、その学生たちが率先して暑そうな学生に水を配ってる姿や、Dormitory の入室が許可されるまで一緒に待っていて、タイ語が飛び交うなか英語で地震の時のいつもの対応などを教えてくれました。緊急時に、さらにめったに起こらない災害の時に自分の家族と連絡しつつ、他の人も気かけられる行動に尊敬しました。



3. 大学へのメッセージ

今回ははじめての他の大学での病院実習および東南アジアがはじめての経験であったため、

ビザを含めて大変お世話になりました。地震が起こった際もメールや対応をしていただき感謝しています。今回地震を経験したことが不運だったととれるのですが、海外で何かトラブルをかかえたときの不安な気持ちと、医療と日常生活英語の通訳の必要性とともに、現地の学生が助けてくれたことは本当に感謝しています。国際保健を考える上で、母国と他の国との違いとの違いを理解しつつ、尊重して助けられるような医療従事者になりたいと思います。

